

平成23年度の事業報告書
平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

法人名 特定非営利活動法人モーストの会

1 事業の成果

NPO 法人モーストの会とイラン化学兵器被害者支援協会（SCWVS）の8年間の医療・平和交流で、両団体が毎年、二国間の行き来を重ねる。イラン関係者は毎年8月6日、広島平和記念式典に参加し、平和記念資料館前田耕一郎館長からヒアリングを重ね、2007年6月29日、テヘランシティパークに化学兵器犠牲者の慰霊碑とテヘラン・ピース・ミュージアムが完成。このたび、同建物を大改装し、4年後の2011年同日、改装記念式典が行われた。

式典はシティパーク内会議室で開かれ、広島からは当会メンバーら7人が出席。前田館長や当会津谷静子理事長、アヤジテヘラン副市長らが祝辞を述べた。ミュージアムでは、広島の資料館のピースボランティアガイドシステムが取り入れられ、テヘラン市在住の化学兵器被害者がボランティアガイドを務め、これまで得られなかった生きがいを感じ活動している。

今回式典に参加した広島大大学院の井内康輝教授（病理学、当時）は、大久野島（竹原市）の毒ガス工場の工員とイラン・イラク戦争の毒ガス被害者の呼吸器や皮膚、眼球疾患の症例を掲載した世界初のアトラス（図説集）を監修中。その準備会議がササン病院（テヘラン市）で同日、両国の毒ガス被害者の治療にあたる専門医らが出席し行われた。アトラスは2012年初夏完成予定。

その後、市庁舎を訪れ、テヘラン副市長アヤジ氏らと会見。市長から東日本大震災のお見舞いのメッセージをいただく。

一方、SCWVSからことしも4人が8月4日、広島入りし、6日、広島市平和記念式典に出席した。その後、前田館長とミュージアムの運営についてピースボランティアのシステムを含め意見交換。広島県教委の担当者から、イランの戦争体験がない次世代への平和教育のあり方について、県の平和教育についてをヒアリング。

またことし、井内教授が議長となり、行われた「青少年国際平和未来会議ヒロシマ2011」の分科会（アステールホール会議室）で、8月5日、SCWVSのDr Shahriar Khateri が、広島市の姉妹・友好都市（ボルゴグラード市（ロシア）ほか含む9都市）の青少年と指導者70人あまりにイラン人毒ガス被害のプレゼンテーションを行った。

このたびのテヘラン・ピース・ミュージアム改築記念に、当会より藤城清治氏の影絵「悲しくも美しい平和への遺産」（原爆ドームを描いた作品）を現地へ寄贈するため、9月15日、在京イラン大使セイエッド・アッバス・アラグチ氏（当時）を表敬訪問。当会理事長の平和のメッセージを添えた影絵を寄贈した。アラグチ大使は、世界平和のための当会の活動に感謝の意を述べられた。大使は3年の任期を終え帰国となり、当理事長が、2011年10月20日、大使公邸で行われた送別レセプションに出席。国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）会長近衛忠輝氏らと談話した。

(2) その他の事業

実施しなかった

事業名 (定款に記載 した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額 (単位：千 円)

(備考)

- 1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。